

脳腫瘍が光れば、 道しるべのある 手術ができる。



脳の腫瘍の切除手術の難しさは腫瘍の位置を必ずしも正確に把握できない点にあります。その現状を変える新たな診断方法を開発し、実用化を目指しているのが藤田医科大学です。それは、血流を顕微鏡で可視化させる検査薬が脳腫瘍まで光らせるという思いがけない発見から生まれた手法で、手術の中、腫瘍がどこに位置するかをカーナビのように特定できます。医師の技術に「見える」診断法が加わることで腫瘍の取り残しが減り、予後やQOLが向上する未来が見えてきたのです。この医療の底上げを実現すべく、1日でも早い社会実装に向けて研究に尽力しています。

救える力を、創りだす。

 藤田医科大学